

令和7年度市民アンケート・団体アンケート集計結果報告について

1 調査目的

本調査は、「蒲郡市生涯学習推進計画 2027」を策定するにあたり、市民の生涯学習に対する意識や生涯学習活動の状況等を把握するとともに、蒲郡市文化協会に加盟する団体や蒲郡市の公民館で活動する団体の活動状況や活動上の課題等を把握し、計画づくりや施策の立案に活用することを目的として実施しました。

2 調査概要

区分	市民アンケート	団体アンケート
調査対象者	市内在住の満18歳以上の住民 蒲郡市文化・スポーツリーダー（GCSL）	蒲郡市文化協会に加盟する団体・ 蒲郡市の公民館で活動する団体
抽出方法	無作為抽出及び全GCSL	全数
調査方法	郵送配付・郵送回収及びインターネット回答	各施設での配付・回収及びインターネット回答
調査期間	令和7年9月11日（木）～ 令和7年10月17日（金）	令和7年9月11日（木）～ 令和7年10月17日（金）
配付数	1,534 件	453 件
有効回収数	502 件	258 件
有効回収率	32.7%	57.0%

3 市民アンケート調査 ※回答一部抜粋

（1）回答者の属性

○60歳以上が回答者の約半数を占めています。

■性別構成

女性 62.0% / 男性 36.7%

■年代構成

70代 21.1% / 60代 19.9% /
80代以上 11.0% / 40代 14.3%

■職業構成

会社員等 30.9% / 主婦 18.3% /
パート 18.3% / 無職 16.9%

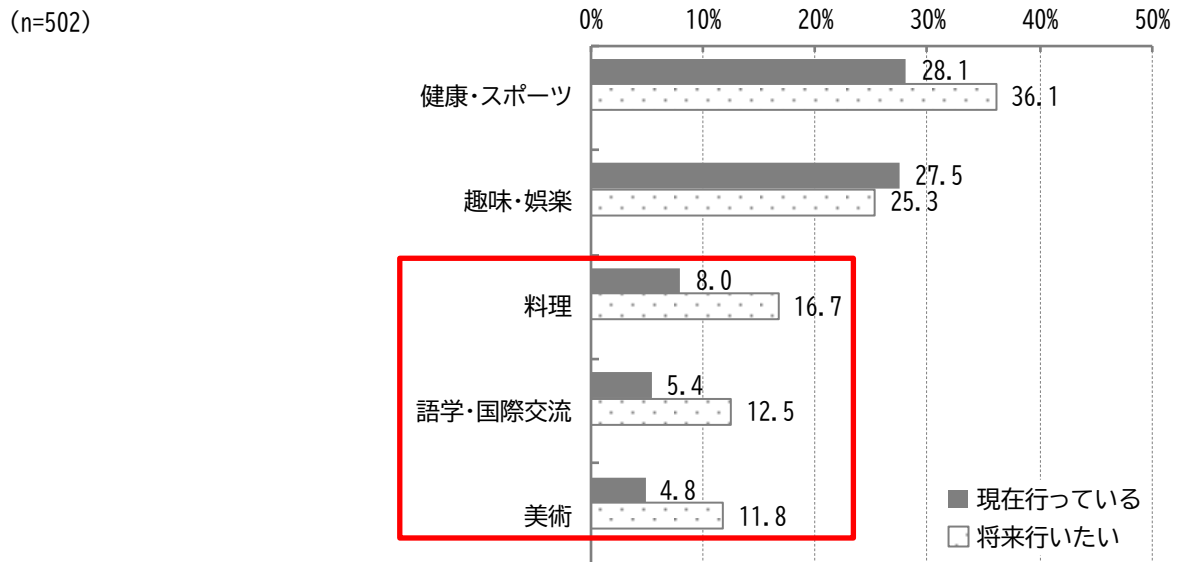
■家族構成

二世代親子 49.5% / 夫婦のみ 27.3% /
単身 9.4%

(2) 現在と将来の生涯学習への意欲

○現在は「健康・スポーツ」と「趣味・娯楽」が3割近くとなっています。将来行いたいジャンルとして、「料理」、「語学」、「美術」への関心が現在の2倍以上に拡大しており、学習ニーズの多様化の傾向がみられます。

生涯学習の動向（現在と将来の意欲比較）（Q1・Q4）

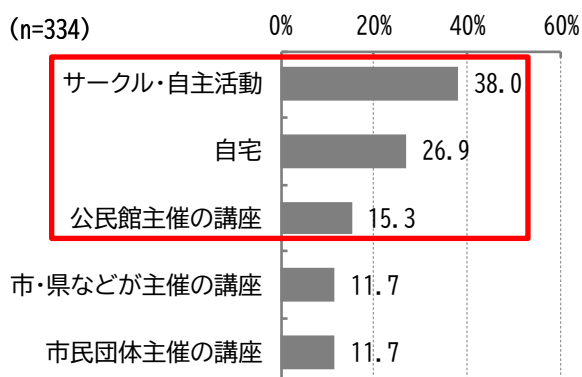


(3) 生涯学習を行っている場所と学習を行わない要因

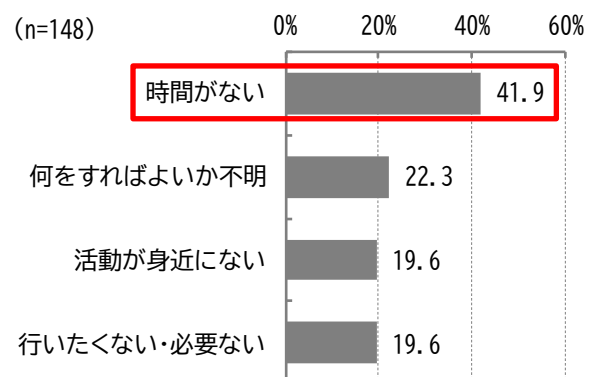
○生涯学習を行っている場所はサークル・自主活動、自宅、公民館が中心です。

○活動を行っていない人（30.1%）の最大の壁として時間不足が挙げられます。

生涯学習を行っている場所（Q2）



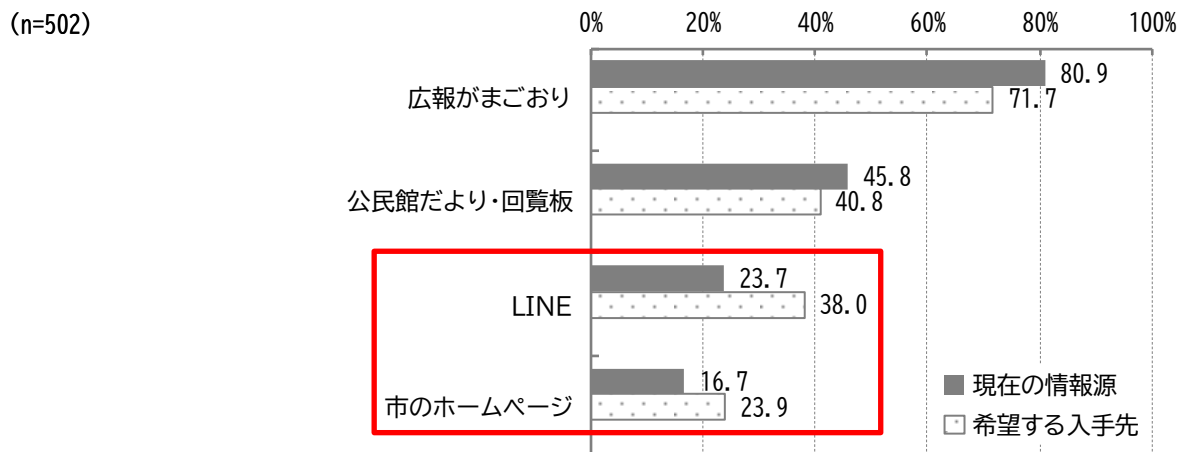
学習を行わない要因（Q3）



(4) 情報提供における紙媒体とデジタルのギャップ

○紙媒体（広報・回覧板）を通じた情報入手の割合が高いほか、LINE や市のホームページなどのデジタルツールを希望する割合が高くなっており、発信チャネルの最適化が求められています。

生涯学習に関する情報源と希望する情報入手先（Q5・Q6）

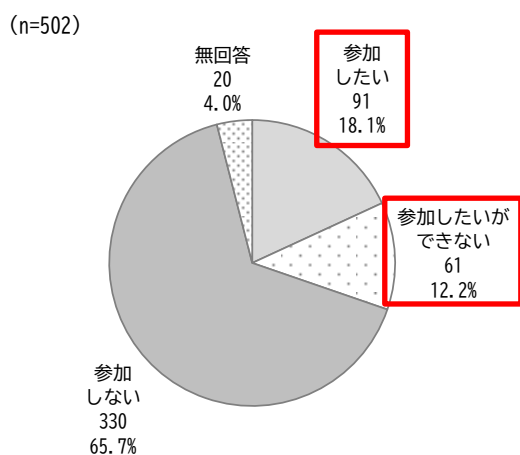


(5) オンライン講座への参加意向と課題

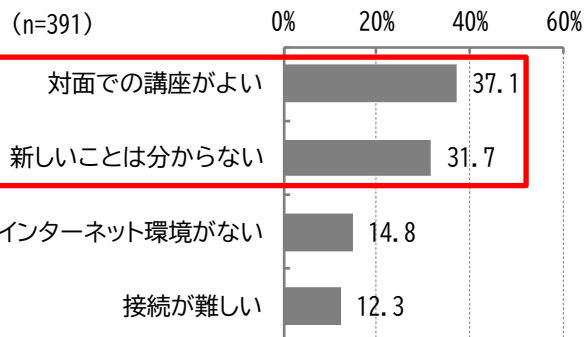
○オンライン講座の受講経験者は 6.6%にとどまりますが、回答者の約3割が受講を希望しています。

○受講にあたっては対面志向と ICT の苦手意識が壁となっています。

オンライン講座への参加意向（Q8）



受講できない・しない要因（Q9）

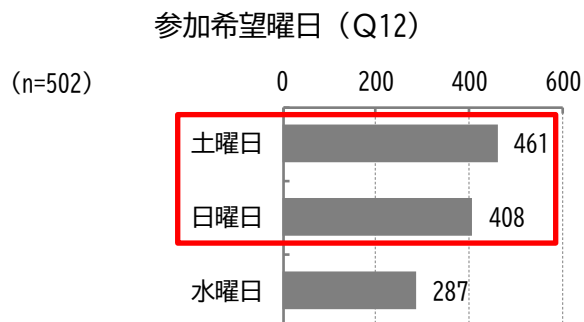
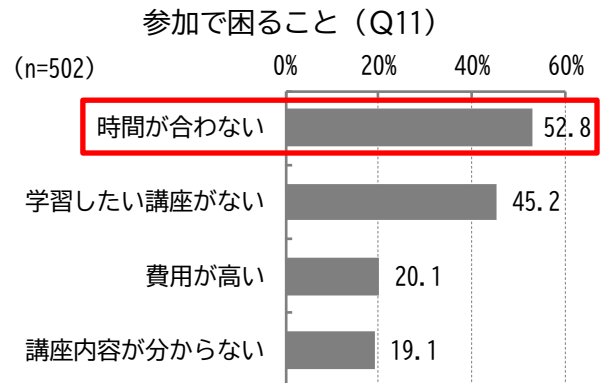
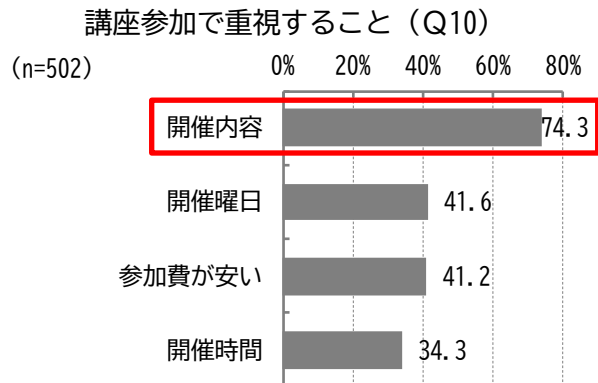


(6) 講座参加における要望と曜日・時間帯ニーズ

○回答者の約4分の3が講座等の参加で重視するものに「開催内容」を挙げています。

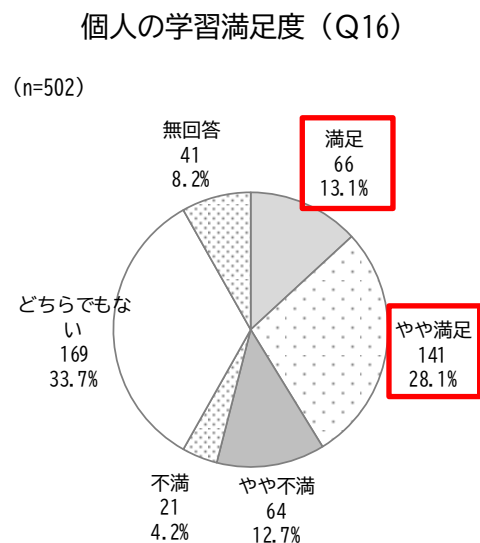
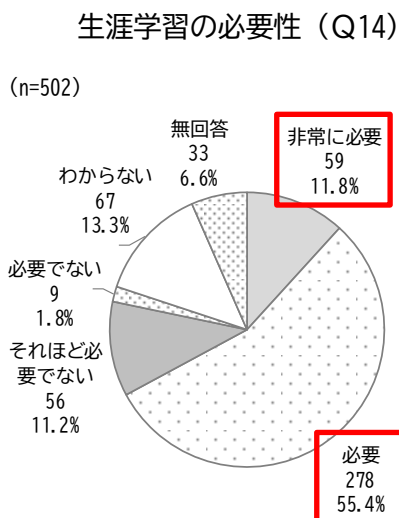
○講座等の参加で困ることとして、「時間が合わない」が最も多く挙げられています。

○講座等の参加を希望する曜日は、土・日が平日を大きく上回っています。

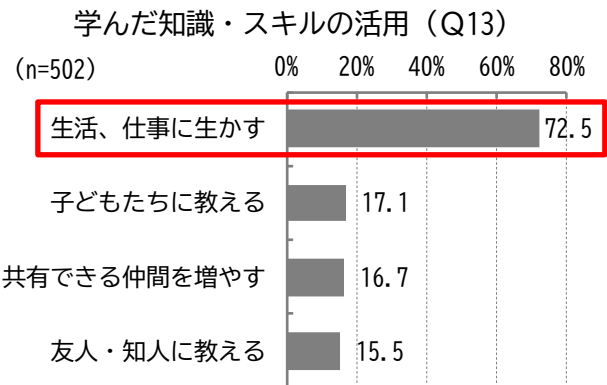
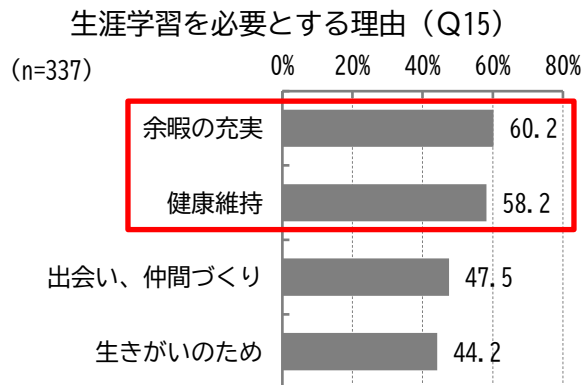


(7) 生涯学習の必要性和成果の生かし方

○市民の 67.2%が生涯学習を必要と感じていますが、自己満足度は合計で 41.2%にとどまっており、活動拡大への支援が求められます。



○生涯学習を必要とする理由は「余暇の充実」、学んだ知識・スキルの生かし方は「生活、仕事に生かす」が最も多くなっています。

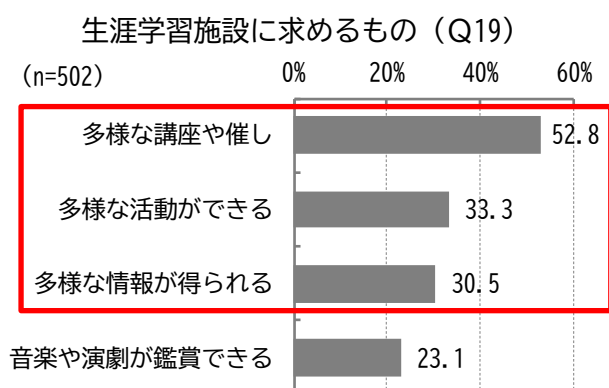
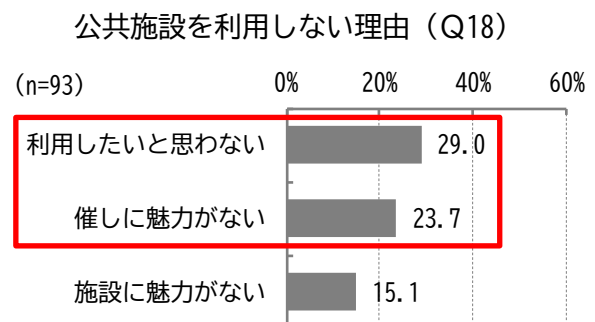
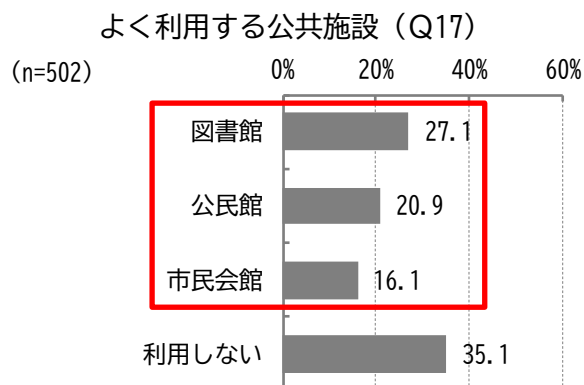


(8) 生涯学習施設の利用状況と施設に求めるもの

○よく利用する公共施設として、図書館、公民館、市民会館が挙げられています。

○利用していない理由として、「利用意欲がない」「催し物に魅力がない」が多く挙げられています。

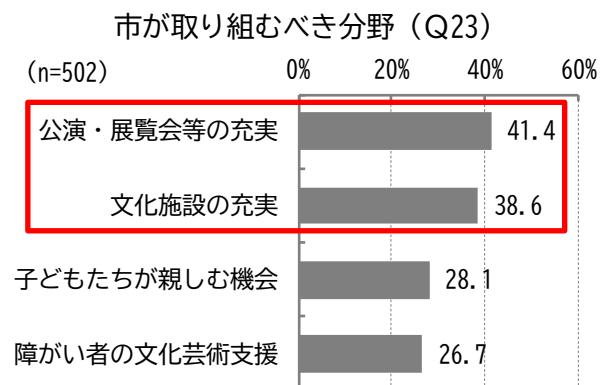
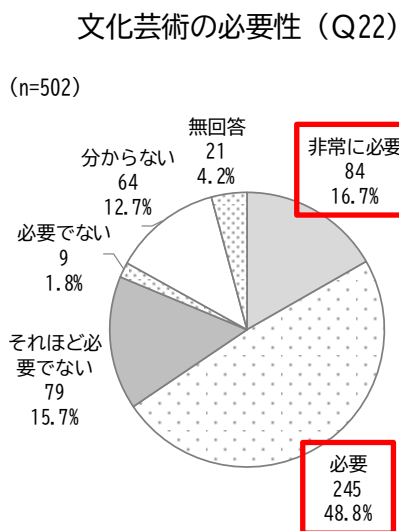
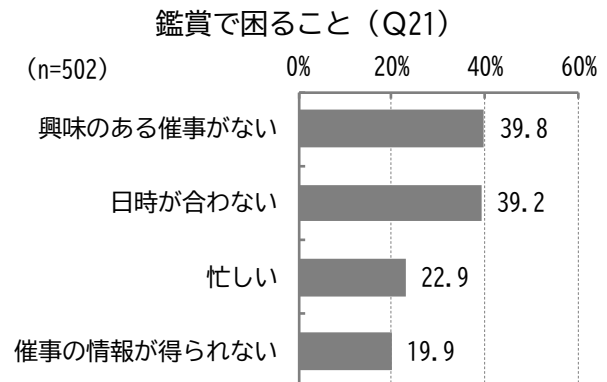
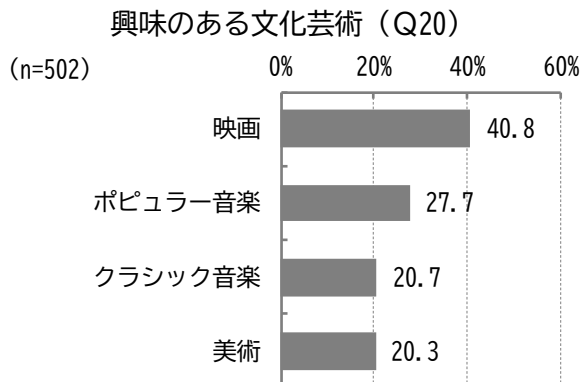
○生涯学習施設には、多様な講座や催しの提供、多様な活動ができることなどが求められています。



(9) 文化芸術への関心度と行政への期待

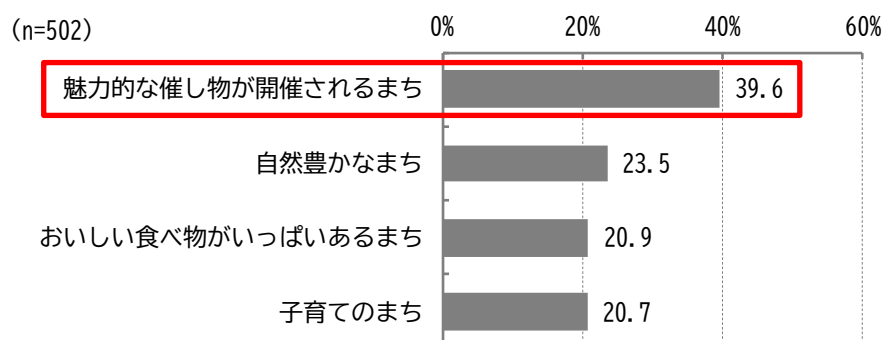
○市民の 65.5%が優れた文化芸術を必要と考えています。

○市が取り組むべき分野として、「公演・展覧会等の充実」、「文化施設の充実」が多く挙げられています。



(10) 将来の蒲郡に求める姿

○「魅力的なイベント」を求める意見が最も多く、蒲郡が誇る豊かな自然や食、子育て環境が上位となっています。



4 団体アンケート

(1) 団体の基本属性

○会員数は「1～10人」が半数を超え、活動年数は「20年以上」が半数近くを占めています。

○活動がさかんな年代は「70歳代以上」が約3分の2を占めています。

■団体の活動分野 (Q1)

健康・スポーツ 22.5% / 趣味・娯楽 15.5% /
声楽・邦楽・洋楽 12.4% / 舞踊 7.8%

■団体の会員規模 (Q2)

1～10人 55.8% / 11～20人 26.4% /
21～30人 8.1% / 30人以上 8.2%

■活動がさかんな世代 (Q3)

70歳代以上 66.3% / 60歳代 17.1% /
50歳代以下 11.3% / 幅広い世代 3.5%

■団体の活動年数 (Q4)

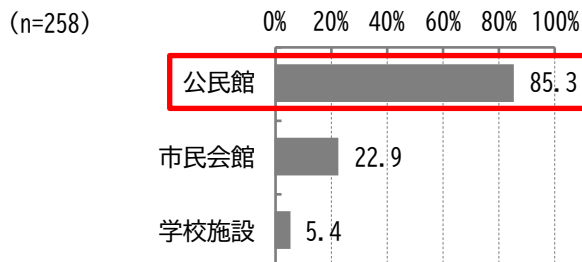
20年以上 46.5% / 10～20年 24.0% /
10年未満 26.7%

(2) 団体活動の現状と満足度

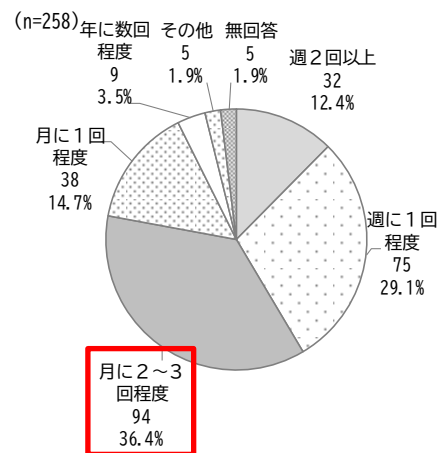
○団体の8割強が公民館で活動しており、月に2～3回程度活動している団体が最も多くなっています。

○利用している施設環境の満足度、自身の生涯学習活動の満足度はいずれも「満足」「やや満足」を合わせて約9割と高くなっています。

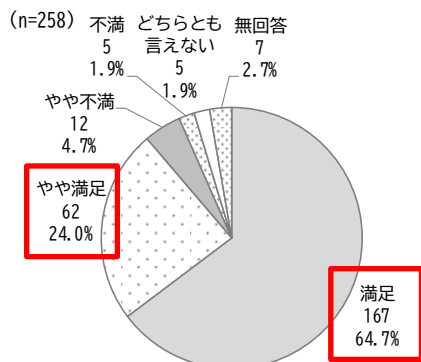
団体の活動拠点 (Q5)



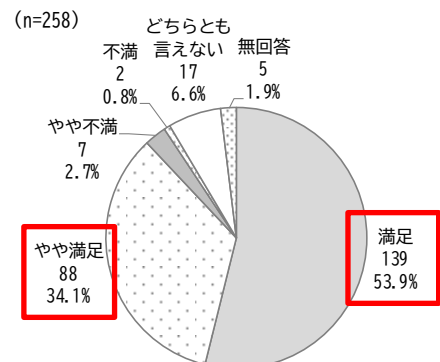
団体の活動回数 (Q7)



施設環境の満足度 (Q6)



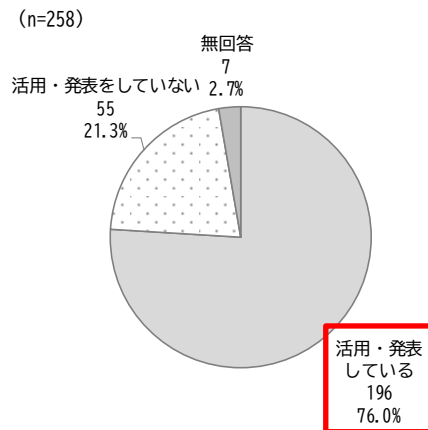
自身の活動の満足度 (Q8)



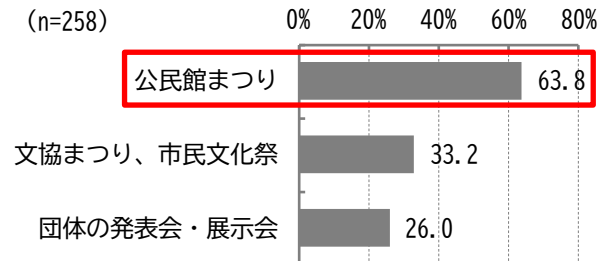
(3) 活動成果の活用・発表

○約4分の3の団体が活動成果を活用・発表し、その約6割が「公民館まつり」を活用・発表の場としています。

活動成果の活用・発表 (Q9)



活用・発表の場 (Q10)



活用していない理由 (Q11)

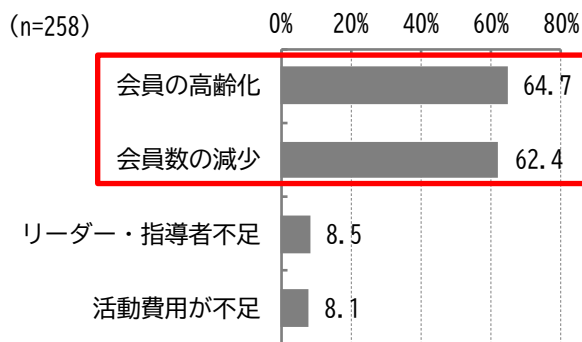
- 活用・発表を考えていない 38.2%
- 活動内容が発表に適さない 30.9%

(4) 団体が抱える課題と行政への期待

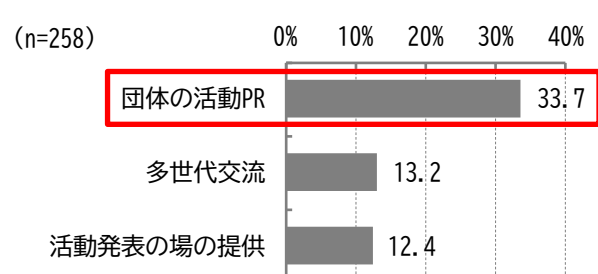
○会員の高齢化と会員数の減少が大きな課題となっており、課題解決に向けて団体の活動PRや多世代交流などの取り組みが市に求められています。

○約3分の2の団体が現状維持の活動方針としています。

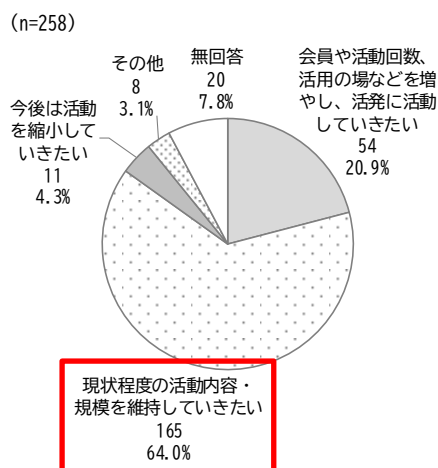
団体が抱える課題 (Q12)



市に望む取り組み (Q13)

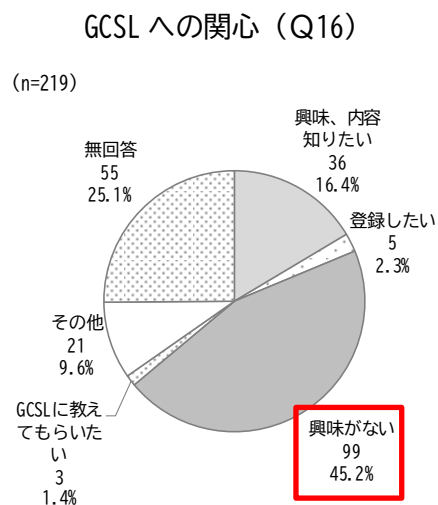
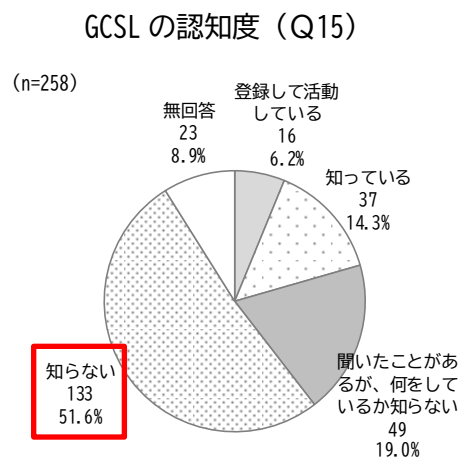


今後の団体活動方針 (Q14)



(5) GCSL 蒲郡市文化・スポーツリーダー

○GCSL（蒲郡市文化スポーツリーダー制度）は半数以上が「知らない」と回答し、未登録団体の関心の低さも窺えることから制度の周知が課題です。



5 複合施設と生涯学習のまちづくりへの意見

(1) 新複合施設「みらいキャンバス」への期待 (自由意見)

- 誰でも気軽に利用でき、交流を促す、明るく開放的な空間デザイン（カフェ、交流スペース、屋内遊具広場など）
- 様々な活動ができ、質の高い活動を可能にする多機能な施設・設備（図書館、ホール、展示室、調理室、練習室、学習スペースなど）
- 公共交通機関の拡充や駐車場の確保など、アクセスの確保・充実

(2) 生涯学習のまちづくりの推進に向けた意見 (自由意見)

- 生涯学習活動に関する情報発信の充実
- 子ども・若者の意見の聴取および反映
- 学びの場、講座・催しの充実
- より多くの人が気軽に参加し、交流できるようにするための工夫
- 団体や活動に対する市の助成